NIE実践報告

1．タイトル：**具体的事実から現実を学ぶ**

2．学校名

愛知県立長久手高等学校

3．実践者名（代表者名）

鈴村紀代子

4．学年

2年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

家庭科

6．単元（本時の学習課題）名

家計の現状と社会の関わり

7．目標（狙い）

「家計の現状と社会の関わり」の学習をするに当たっての導入部分で国の政策と家計とのつながりを理解させる。

8．評価の視点

具体的な資料を見ることで、現状を理解する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「資源を生かす」領域（10時間中２時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

家計と社会との関わりを身近に感じさせるために、生まれてから高校を卒業するのにいくらかかるか計算をさせた。総額およそ３０００万円近くになり生徒は驚くが、その中でも教育費の占める割合が高いことに気づく。ちょうどこの時期に各新聞に０７年のＧＤＰに占める教育への公的支出の割合がＯＥＣＤ２８カ国中日本が最下位であるという調査結果が発表された。この記事とインターネットで調べたＯＥＣＤ加盟国の大学・高校の授業料無料化と給付制奨学金の有無などを比較した資料を作成した。さらに国際人権規約の学費無償化をめざす条項を批准していない国は日本・ルワンダ・マダガスカルだけであるとの説明も加えた。
１クラスあたりの児童数も日本はＯＥＣＤ平均を大きく上回っており授業料以外の教育環境も貧しいことがわかる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

大学に行くのにお金がかかるのは仕方ないと多くの生徒が思っていたが、ヨーロッパの多くが大学まで学費が無料であることに驚き、国の姿勢が私たちの生活に大きく影響していることを実感したようである。

12．成果と課題

教育費だけでなく、医療・福祉・保育などの分野でも客観的な数値を示し、生徒の理解につなげたい。